

1/6～3/26 大学博物館平常展
「新天地・上ヶ原に馳せた夢」
移転直後のキャンパスや学舎の映像も初公開



時計台構想図（株式会社一粒社ヴォーリス建築事務所 所蔵）

関西学院大学博物館では、原田の森(神戸市)から上ヶ原(西宮市)へのキャンパス移転や学院の大学昇格までの発展の歴史を紹介する平常展を開催している。大学昇格が決定した時の大学昇格決議文やキャンパス用地売買のため阪神急行電鉄株式会社(現阪急電鉄株式会社)と交わした売買契約証書、関西学院大学昇格資金募集のための寄付申込書・絵葉書など普段見ることのできない貴重な資料を展示している。

また、株式会社一粒社ヴォーリス建築事務所が所蔵する上ヶ原キャンパス建築物の図面や今の時計台が設計される前の構想図も特集陳列されている。さらには、本展示の準備段階で存在が明らかになった移転直後(1928年・29年頃)のキャンパス風景の8mmフィルム(公益財団法人近江兄弟社所蔵)の映像(4分)も上映されている。移転当時の動画を公開するのは今回が初めて。

関西学院大学の当時に思いを馳せながら、関西学院の歩みをご覧ください。

※一般参加可、申し込み不要、無料

■開催期間：1月6日(水)～3月26日(土)

■開館時間：9時30分～16時30分(入館は16時まで)

■休館日：日曜日、1月11日、2月1日～6日、2月11日、2月29日

■場所：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス 大学博物館

■特集陳列の展示内容

[1期] 1月6日(水)～30日(土)

・時計台立面図(正面)・時計台構想図 他8点

[2期] 2月8日(月)～27日(土)

・時計台増築平面図(1階)、外国人住宅立面図(北側面) 他10点

[3期] 3月1日(火)～26日(土)

・ヴォーリス直筆神学部校舎構想図(2階)
・文学部校舎断面図(チャペル) 他11点

■問い合わせ 大学博物館 TEL:0798・54・6054

2月からインドネシアとタイの農村へ出発
レンガや竹で住宅の建築ボランティア



国際ボランティアサークルの「関西学院上ヶ原ハビタット」の学生ら66名が3チームにわかれて、インドネシアのジョグジャカルタとメダン、タイのチェンマイの農村地域で、1、2軒の住宅を建築する家建築活動を実施する。ジョグジャカルタチームが2月10日に出発するのを皮切りに、メダンチームが2月20日、チェンマイチームが2月27日に出発し、それぞれ約2週間滞在する。

関西学院上ヶ原ハビタットは、家建築資材費を集めるために、毎月5回のペースで募金活動するほか、フリーマーケットやイベントの開催などで独自に資金を集めた。



現地ではレンガ、セメント、竹など各地の土地柄や生活スタイルに適した材料を使用し、住宅を建てる。また、綱引きなど日本らしさを取り入れた運動会など村人と交流する行事を開催することで、学生や村人同士がより良い関係を築ける機会を提供する予定だ。

関西学院上ヶ原ハビタットは、住宅を建てることでコミュニティを築く自立支援型NGO「Habitat for Humanity」の学生支部として、1997年から東南アジアを中心とした途上国で、年に数回の家建築活動を行っている。現地では孤児院や小学校なども訪問し、童謡や折り紙など日本文化を伝える活動も実施。また帰国後は、日本各地の高校などを訪問し、途上国の現状を伝える活動にも励んでいる。

代表の瀧川浩輝さん(商学部2年生)は、「現地の住宅はオール土間です。トイレや台所がないのが現状で、衛生面は良くありません。学生らしく

積極的に村人と交流を重ね、力仕事でも現地に貢献できるように2週間をフル活用してきます」と意気込む。



※写真は2015年2月にインドネシアとネパールで実施した家建築活動

次号 1月25日(月)発行予定

